



平成29年4月27日

各位

会社名 イビデン株式会社
代表者名 代表取締役社長 竹中裕紀
(コード:4062 東証、名証各1部)
問合せ先 経営企画部長 廣瀬康人
(TEL. 0584-81-7973)

「当社取締役会の実効性の分析・評価」結果の概要について

当社においては、取締役会全体が実効性を持って機能しているかを検討し、その結果に基づき、問題点の改善や強みの強化等の適切な措置を講じていく継続的なプロセスにより、取締役会全体の機能向上を図ることを目的とし、昨年度から、取締役会の実効性に関する分析・評価を実施しております。

この度、2016年度の分析・評価が完了しましたので、以下にてその概要を開示いたします。

1. 評価の方法

(1) 社外を含む全ての取締役及び監査役に対し、評価の主旨等を説明の上、2017年2月から3月にかけて取締役会事務局(経営企画部)が作成した「2016年度 取締役会実効性評価アンケート」に基づき、社外を含む全取締役・監査役が自己評価を実施し、その結果について、2017年3月31日開催の取締役会にて議論し、決議いたしました。

(2) 評価項目

評価を実施した大項目は以下の通りです。

- ①議論・検討の実効性
- ②監督機能の実効性
- ③リーダーシップの実効性
- ④環境整備状況の実効性
- ⑤株主・ステークホルダーへの対応の実効性
- ⑥取締役会の構成等に関する実効性

(3) 評価方法

- ①調査は記名方式とした。
- ②評価尺度は5段階評価とした。(5・・・優、3・・・可、1・・・不可)
- ③集計は社内取締役と社外取締役・監査役を区別して実施
- ④分析は、評価の低い項目及び社内取締役と社外取締役・監査役の評価結果のギャップが大きい項目について、重点的に実施した。
- ⑤評価・分析結果を取締役に開示し、取締役会として「取締役会全体の実効性評価結果」を決議した。

2. 分析・評価結果の概要

各取締役、監査役による評価アンケートの集計の結果、全ての大項目(上記 1. (2)に記載)について、社内取締役及び社外取締役・監査役共に、3.0 以上の評価点となっており、当社取締役会全体において、実効性はおおむね確保できていると分析・評価いたします。

なお、昨年度に課題として認識しました経営陣幹部・取締役の報酬決定及び候補者指名における社外取締役の関与につきましては、2016 年度より発足しました社外取締役を構成員に入れた(任意の)指名・報酬委員会を、昨年度は4回開催し、有効に機能している旨の評価となっております。

一方で、主に以下の点につきましては、課題や工夫の余地が見られると認識し、重点的に対応してまいります。

(1) 認識した課題

1. 社内における多様性の確保に向けた取り組み
2. (社外取締役・監査役に対する)会日に十分先立った資料配付

(2) 当社の対応

1. 多様性の確保に向け、女性活躍推進活動を展開しておりますが、今後更にその活動を強化してまいります。また、監査等委員会設置会社への移行に合わせて、取締役の半数(女性1名含む)を社外取締役とすることで、ガバナンスの強化と多様性の確保を実施してまいります。
2. 現在、(特に専門性の高い)設備投資議案及び特に重要な議案については、取締役会開催前に社外取締役・監査役に対して、提案取締役または取締役会事務局による事前説明を実施しております。更なる実効性の向上に向け、今後は議案の骨格が確定した段階で社外取締役・監査役との情報共有を図ることで、十分な事前検討が可能となるプロセスを検討してまいります。

当社取締役会におきましては、今回の評価結果及び課題への対応を踏まえ、今後も実効性の向上を図ってまいります所存です。

以上